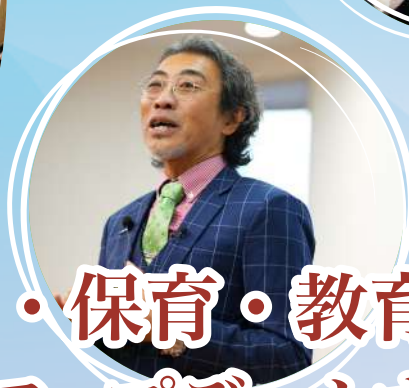


# アタッチメント・ライフ

報告号

## 第14回 育児セラピスト全国大会 in2023



「子育て・保育・教育を、  
10年先へアップデートする」

スキルアップ講座

「次世代こども教育コンサルタント」養成講座

シンポジウム

基調講演

「川の向こうにわたって『世界の中のワタシ』  
を育てる」ほか



## 第14回 育児セラピスト全国大会 in2023 「子育て・保育・教育を、10年先へアップデートする」

P.1 開会あいさつ

### 1日目：スキルアップ講座

P.3 「次世代こども教育コンサルタント」養成講座

### 2日目：シンポジウム

P.10 日本アタッチメント育児協会・理事長 廣島大三  
基調講演  
「川の向こうにわたって『世界の中のワタシ』を育てる」

#### 優秀実践表彰式・実践発表

P.16 ダイバーシティ部門 村木 雄一さん  
定年後の夫婦の生きがいは、親子のよりどころを作ること

P.18 保育・子育て支援部門 田口 いづみさん  
仕事だからこそ大事にしてきた  
「アタッチメントとベビーマッサージ」

P.22 ランチミーティング

P.22 恒例!お悩みスーパーバイズ 2023

P.29 あとがき



# 第14回 育児セラピスト全国大会 in2023

「子育て・保育・教育を、10年先へアップデートする」

## 開会のあいさつ



日本アタッチメント育児協会の広島です。3年続いたコロナ禍が、ようやく収束しました。今年の全国大会は、「コロナ後のはじまり」という意味で、節目になると思います。そのような訳で、今年はこれまでとは違う面持ちで、わたし自身も臨んでいます。

コロナは、これからゆっくりと訪れるはずだったあらゆる事象を加速させました。円安、エネルギーコスト上昇、物価高、日本経済の縮小・・・本来なら、もう少し時間をかけて起こるはずだったことが、コロナ禍を経て一気に加速化し現実になったように感じます。

わたしたちのいる保育・教育・子育て支援の世界も、この影響を受けて大きな変化が訪れています。いまはまだ、ピンと来ないかもしれませんが、しかし、5年後には、変化を受け入れた人が結果を出し始め、10年後には、それが多くの人の当たり前になり、20年後には、政府が政策に盛り込んでいることでしょう。

わたしは、みなさんと共に“5年後に結果を出し始める人”の側に居たいと考えています。コロナ後の世界では、あらゆることが加速化しています。わたしが思っているよりも5倍は早く変化しています。だから、コロナが明けた年である今年（2023年末）のうちに、みなさんと「こ





れからの 10 年・20 年の世界観」を共有したいと考えました。

例年のシンポジウムでは、講師の先生をお呼びして、外からの知見を得る機会としてきました。スキルアップ講座は、「現場でいま活用できる知識とスキル」を提供してきました。しかし、今年は、シンポジウムで、わたし自身が講演し、スキルアップ講座は、「いま」ではなく「10 年後のための知識とスキル」を扱いました。

起こっていることはどれも、みなさんが聞いたことがあることであり、知っていることだと思います。それを「そんなことは知ってるよ!」と言って通り過ぎるのではなく、未来と照らし合わせて、深掘してみませんか?それによって、とても大事な事実の数々に気づくことができるはずです。

今回参加していただいた方々は、「具体的にはわからないけど、このメッセージにピンときた!」そんな思いで、集まっていたいただいた方だと思います。いま、当たり前になっている価値観に注目しながら、もう一方で、これからあり得る未来の価値観にも視線を置いて、少しずつ実感を深めていく。わからなくてもイイです。モヤっとしてもイイです。今日は、そんな歩みの第一歩になれば良いと思います。

一般社団法人 日本アタッチメント育児協会

理事長 **廣島大三**





## 次世代こども教育コンサルタント養成講座



毎年、全国大会で新しいスキルアップ講座をリリースしてきました。「“いま”現場で必要な知識とスキルを提供し、“これから”の仕事や活動に落としこむ」ことを、コンセプトとしてきました。ところが今年は、これまで一貫してきたものとは違うコンセプトの講座となりました。それは・・・

「“10年後”の世界に対応するために、  
“いま”からはじめる意識改革」

多くの方は、どう反応してよいか戸惑ったかもしれません。かく言うわたし自身も、講座を完成させるころに、ようやくこれがコンセプトであったことに気づいた次第です。このことを発見したため「この講座は、勉強会のようなカタチで、受講生のみなさんと一緒に作りあげる」という方針を、全国大会が直前に迫ったタイミングで打ち出しました。

つまり今年は、「学んだことを持ち帰って、現場ですぐに実践する」といういつものスキルアップではありません。「次世代にむけた未来の価値観を

提示し、その世界観を描き、われわれ大人の意識を変えること」をテーマとしたスキルアップです。

### われわれは、何のために 「教育」を大事にしてきたのか？

われわれが身を置く「子育て・保育・教育」は、同一線上にあります。これまでは、子どもの年齢によって、家庭の子育て・保育園の保育・小学校からの教育と呼び名が変わってきました。いまや、その境目はなくなり、同義語になりつつあります。最終的には「教育」という言葉に集約できるでしょう。

そこで冒頭、ウィリアム・ジェイムズによる「教育の定義」から講座は始まりました。

『教育のある人』とは、自分が今迄まだ一度も置かれたことのないような境遇に入っても、良く実際的にその困難を切り抜けることのできるような人のことである。」というジェイムズの言葉を引用して、教育とはなにかについて定義しました。

教育とは「子どもが大人になる」ためにとおる

人生のプロセスであり、「人が幸せで豊かな人生をおくる」ために必要不可欠な手段であり、それを経済面と精神面の両面で実現すること、とまとめました。

## 世界の先進国とは逆の道を 進んでいる日本がたどる現実とは？

そのうえで、いま日本で起きていることを検証しました。わたしの意見や憶測ではなく、事実の積み上げから導かれる“これから起こる現実”です。人口減少、高齢化、円安、これらの事実から導き出される現実は、高度経済成長の終わりと経済縮小の未来です。これはすでに始まっていて、みなさんが実感しているとおります。



そこで、世界に目を向けてみましょう。日本よりも少ない人口で、世界をリードする国が存在します。ドイツや北欧諸国がそれにあたります。これらの国に共通するのは・・・

1. 国民の労働生産性が高い（ひとりひとりが、よく稼ぐ）
2. 教育制度が充実している（教育レベルが高い）
3. 英語力が、世界トップレベル（世界で活躍できる）

この3つです。つまり、これから10年でこの3つを実現できれば、人口減少で世界経済から取り残されている日本が、再び世界をリードする国になる可能性もあるということです。しかし現状の日本は残念ながら、ドイツや北欧諸国のような人材を育てられる教育ではありません。むしろ、逆

方向を進んでいると言ってもよいでしょう。

## いま企業が求める人材は、 優等生でも有名大学卒でもない

この事実からわかるのは、これからの時代に必要とされるのは、これまでとは全く違う人材である、ということです。

成績が良いだけの優等生は、もはや日の目を見ることはありません。学歴は何も保証はしてくれません。終身雇用も年功序列も終わりました。有名大学を出ても、一流企業に入れるわけではありません。たとえ一流企業に入っても、高い収入が約束される訳ではありません。アメリカではすでに、アップルやグーグル、IBMなどIT大手を中心に、採用における大卒や大学院卒の学位要件を廃止する企業が出ています。

### 代わりに重視されるのは、なにか？

答えのない問題に、自分なりのゴールを描き、そこに至る施策を見出せる。失敗してもあきらめず、結果を出すまでチャレンジをし続けられる。正しいやり方を教わるのではなく、自分で考え、調べ、最も効果的・効率的な方法を見つけ出す。ひとつの専門を深く掘り下げる。これからの時代に大事なものは、そうした能力です。

日本でも企業は、すでに後者の人材を獲得するために、採用基準や評価基準を改めています。前者のような人材は、もはや必要とされません。しかし、日本の親や教育者の多くは、いまだに過去の価値観で教育を捉え、前者の人材を育て続けています。

## これから必要とされ、 重視される「非認知能力」

ところで、両者の違いはどこにあるのでしょうか？ひとこと言えば、「認知能力」と「非認知能力」の違いです。

これまで必要とされてきたのは、テストで良い点をとるための「認知能力」です。そして、これ



から必要とされるのは、高い労働生産性を発揮するための性格傾向や考え方、行動指針の基となる「非認知能力」です。この言葉は、最近の教育界で注目されているので、みなさんも最近よく耳にするとおもいます。

しかし、この「非認知能力」という言葉は、言葉だけが先行していて、結局どういうもので、どうしたらそういう能力がみにつくのか、どの発達段階で何をすればよいのか、それが、どのように人材の有能性と結びつくのか、といったことについて語られることは、少ないようです。

そこで、この講座では、非認知能力の育みと、育て方、そしてその後の活かし方について、0～17歳までを発達段階別に解説しました。

## 「世界の中のワタシ」を育てる 子育て・保育・教育とは？

そのうえで、これからの時代に活躍する人材像を称して、「世界の中のワタシ」を提唱しました。毎度ご紹介している坂本龍一のこの言葉が、このコンセプトを象徴しています。「何人でもないコスモポリタンでありたいというのは10代のころから思っていたことです。地球のどこでも暮らしていける人間になりたいとずっと思っていました。」

「世界の中のワタシ」の必要要素は、2つだけです。

- 非認知能力
- コミュニケーション手段としての英語

そして、「世界の中のワタシ」の育て方は、つぎの2つです。

- 「世界」を実感できる幼少期の原体験

- 発達段階に応じた体験（海外体験も含まれます）

あとは、その子が持っている個性や得意によって、専門性や有能性をそれぞれの分野・業界で発揮して、高い労働生産性を実現してくれます。

## 子どもひとりひとりに 個別対応した子育て

ここまでの、「次世代子ども教育コンサルタント」に必要な前提論です。これを共有できたら、今度は実際に「どうやって」それを導くかについて学びます。そのテーマは、「個を知る」です。

これからの教育は、みんなで同じ方向に向かうものではありません。子どもひとりひとりの個性や得意、興味あるいは、性格傾向や衝動性、苦手や不得手に対応した One to one の教育です。そのためには、まず親は、“わが子”のことを知らなければなりません。しかし、それだけでは十分ではありません。親は、親自身のこともわかっている必要があります。子育てとは、子どもと親の双方のアタッチメント傾向や性格、衝動性、コミュニケーションスタイルの掛け算だからです。子どもとの相性の悪い場面においては、子どものありのままのふるまいに対して、親が自らを客観視して、自分をコントロールする必要があります。そのため本講座では、「おとな心理分析」と「子ども心理分析」の両方を学びました。

## 親を知る、子どもを知るための 心理分析アプローチ

おとな心理分析は、つぎの3つの角度から見





立てました。

その人の生き方の枠組みをあらわす「アタッチメント・スタイル5分類」、その人の人間関係の運用方法をあらわす「コミュニケーションタイプ4分類」、生き方・性分・性格・行動特性をあらわす「ライフスタイル4分類」

子ども心理分析も、基本的には同じ3つの角度から見立てます。

その子の対人関係における反応をあらわす「アタッチメント・スタイル3分類」、他者や環境に対する反応やモノの捉え方、感じ方をあらわす「向性+感受性2分類」、育ってきた環境や家族布置によって方向付けられる「ライフスタイル3パターン」

この心理分析の枠組みは、パナソニックさんと共に開発した「親子診断」の元ネタとなるものです。これは、クエスチョネアによって、親と子どもそれぞれのタイプ分類がわかるというものです。将来的には、この「親子診断」と「次世代子ども教育コンサルタント」が、コラボすることがあるかもしれません。



## ユングがおしえてくれた心理分析 では見えないパーソナリティ

こうした心理分析は、おもに人が生まれて育ってきた環境がどう影響して、結果としてどういうパーソナリティを形成したのかを見立てることができます。しかし、そもそもその人が持って生まれた性格傾向や衝動、有能性や劣等性については、言及されません。

それを見る術が、心理学にないわけではありません。それに着目したのが、心理学者C・Gユングです。彼が活用したのは、アストロロジーです。

ユング曰はく「太陽・月・惑星は、言ってみれば人間の性格のいくつかの心理学的あるいは心的構成要素を説明するものだった。そして、だから占星術は性格についてある程度妥当な情報を与えることができる」

アストロロジーは、現代ではスピリチュアルなどと言われることもありますが、4000年以上も歴史がある学問であり、万物の法則であり、政（まつりごと）の世界や、医学として王侯貴族に活用されてきた人類の智慧でもあります。そして、アストロロジーと心理学は、深い相関性をもった学問です。



## 「持って生まれた性格」を 知る術としてのアストロロジー

人間の「持って生まれた性格」を知る唯一と言ってよい方法こそが、アストロロジーです。子どもは、パーソナリティの形成途上であり、環境要因によって日々成長し、変わっていく存在です。そこで大事になるのは、「その子が持って生まれた性格」がどんなものであるかです。これが環境要因と掛け合わさって、パーソナリティが形成されます。

さらに、親の「持って生まれた性格」を知れば、親子の関係性を見立てることが可能になります。親子関係は、選択された関係ではないので、あまり注目されませんが、「親子の相性」というのは、



親も子も人間である以上存在します。

「親子の相性」がわかっているだけで、親は、相性の悪さで起こった出来事に無駄な罪悪感を抱く必要はなくなります。伝えたいことが、ちゃんと伝わる言い方や伝え方ができます。子どもの能力を伸ばす接し方をして、やる気をつぶすような行動や言動を押さえられます。これによって、非認知能力が豊かに育ちます。



## アストロロジーは、 心理学と通底していた

アストロロジーにおいて、月は「持って生まれた能力や性質」をあらわします。太陽は「月の要素を、人生でどう使って生きるか」をあらわします。これを見ることによって、「持って生まれた性格」を「どのように生きるか」が見立てられます。子どものそれを伸ばし、活かし、ありのままを認めて育てれば、それが、次世代の教育が目指す One to one の教育になります。

さらにアストロロジーは、人間の生涯における発達段階における法則（星座年齢）も見立てることができます。その人が生まれたその瞬間のホロスコープにおいて、各発達段階に由来する天体に、どの星座が位置していたかをみることで、その年齢帯のテーマや生き方の注意事項、目指すべき方向性などが読み取れます。子どものそれを見れば、その子の取扱説明書の役割を果たします。親（大人）のそれを見れば、これからの人生の方針や行き先、これまでの歩みの検証ができます。その法則は、まさにエリク・エリクソン

の「ライフサイクル」さながらです。そこで読み解ける内容は、アルフレッド・アドラーの「ライフスタイル」さながらです。

ゆえに、心理分析とともにアストロロジーを活用することで、これまで心理分析では見過ごしていた側面に光を当てることができます。

## 「次世代こども教育コンサルタント」 として、これをどう活用するのか？

別日におこなった DAY2 では、コンサルタントとしての「活かし方の方向性」を学びました。この講座は、この先 1～2 年をかけて、勉強会の形で、実践例や実践方法を積みあげていきますので、現時点では「活かし方の方向性」という表現になっています。

ひとつは、「ライフサイクル」について、エリク・エリクソンだけでなく、これをフィールドワークに持ち込んだダニエル・レビンソンの両者から学び、アストロロジーにおける発達段階（星座年齢）を補完する試みをしています。これは、「親子関係や人間関係におけるコンサルテーション場面」で活用できそうです。両者を使いこなすと、アストロロジーで見立てて、ライフサイクルで根拠を示したり、具体的なアドバイスに落としたりすることができます。

つぎに、「親の教育方針の立案」や「子育て状況をヒアリングしたうえでの日常アドバイス」「具体的なアクティビティや学校選びにおけるコンサルテーション」の場面で活用できる知識とスキルを学びました。親の意識をどうやって変えるか、



その家庭にあった教育方針と教育予算をどう組み立てるか、わが子の性格・衝動・得意を活かし、不得手や苦手が足をひっぱらないオンリーワンの道を探すための指針を提供する。そのための材料を提供しました。

## この知識とスキルは、 使い込んではじめて活用できる

「次世代こども教育コンサルタント」の知識とスキルのインプットは以上です。ここから、勉強会のカタチで、これを実践的に活用できるようになり、さらにどのように実際の親子に提供するかを模索してゆきます。

最初は、自分の教室に来ているお母さんたちに、セミナー形式で話をするところから始めることになるでしょう。そこから、個別相談の機会を設け、「教育コンサルタントに、子どもの将来に関するアドバイスをもらう」という経験を提供します。これら一連のやり取りにおけるお母さんの反応を、勉強会に持ち寄って、さらにブラッシュアップしていきます。

最終的には、心理カウンセラーのようなカタチで、定期的に個別セッションを設けて、子育ての悩みや夫婦関係、教育の方向性の指南などの

相談に乗るようなものになると、現段階では想像しています。

## わたしたちがまず、答えのない問題 に取り組もうではありませんか！

いずれにしても、これからの子育ては、専門知識をもった第三者による指南が必要な時代が訪れると思っています。「次世代こども教育コンサルタント」は、決して万人向けのサービスにはならないでしょう。しかし、ある種の人たちにとって、とても大事な存在になることは間違いありません。もしかしたら、他のプロジェクトとの相乗効果が生まれるのかもしれませんが。本当に未知数の試みの第一歩がはじまりました。これがカタチになったときには、みなさんにも改めてご報告いたします。

そして受講された方は、「答えのない問題に、自分なりのゴールを設定し、そこへ至る方策を練る」という“次世代的アクション”だと思って、非認知能力全開で、いっしょに取り組みましょう。

次世代こども教育コンサルタント養成講座

0期担当講師 廣島 大三







## 次世代こども教育コンサルタント養成講座 受講生の感想

### 何か変わるかもしれない! と始めてみます

長く保育にかかわり、保育内容の考え方はずいぶん変わってきたものの、現場の状況はほとんど変わっていない。しかも現場で子どもと関わっている保育士自身に主体性が乏しい。以上のことを私の中でどう理解すればよいかと思っていたが、今回お聞きしたことをヒントにし、まずは理解してみようと思う。アストロロジーを使って、自分を知って、家族を知って、何か変わるかもしれない!と始めてみます。時間はかかりそうですが…。

保育士 50代 石川県

### とてもワクワクしながら、勉強になりました

今までの日本の考え、世界から見た日本を学ぶことができました。また、心理学を学び、いろんな見方からの保護者支援も大事で、言葉のかけ方、態度の取り方のワークもとてもワクワクしながら、勉強になりました。しかし、まだ理解もできていないので、これからも学び続けていきます。

新しい教育論を伝えられるように、自身のスキルを向上させ、今後の子育てをサポートする一員として頑張っていきたいです。

これからもご指導のほど、よろしく願い申し上げます。

保育士 50代 熊本県

### 次世代が発展していけるように新しい アイデアなどに関心を持っていきたい

学歴主義ではなく、QOL重視の社会になるためには、私たち大人も次世代に期待できるように考え方を見直す必要があると思います。

現在は、職場でも「いままでは～」 「みんな～」 という考え方がありますが、次世代が発展していけるように新しいアイデアなどに関心を持っていきたいと思いました。

アストロロジーについては理解できるようになるには、もっと勉強が必要だと思いますが昔から「～の星のもとに生まれたので」という言葉がありました。自分を理解するためにも勉強したいと思っています。

団体職員 70代 神奈川県

### 今後のこどもたちの将来について 考えさせられる内容でした

社会的状況を含め、今後のこどもたちの将来について考えさせられる内容でした。今の私にできることは、まずは保育士さんのタマゴである学生さんたちに、物理的体験を通して非認知能力を育むことの大切さを伝えることかなと思っています。私自身は転々としながらも、いわゆる“ママ友”に恵まれてうつになることはなかったのですが、今の世の中、どこかでママが息抜きできるような存在が必要なのはよくわかります。日本にもネウボラ制度ができれば良いのと思いますが、まずは自分のまわり、学生さんや子育て中の娘夫婦と話すことからと思っています。今後も楽しみにしています。

看護師 50代 東京都

### アストロロジーについてもっと知りたいと思いました

アストロロジーをもう少し深くわしく知りたいと思った。なぜならそこからヒントを得て人生の役に立てられそうと思ったからです。学ぶ機会が欲しいと思いました。NICUで子どもを中心に家族ケアを仕事の一貫で行っていたが、大事な時間であったと思う。NICUに入院していると「病院の子」というイメージに家族がなってしまうために、入院している子は家族の一員であることを親に自覚してもらうために面会時間をフリーにして、子どもに会いに来てもらう工夫を多々していた。愛着が形成されると個々への対応に自然となっていくそうだと感じている。

心理士 40代 鹿児島県

このほかのご感想は  
こちらから  
ご覧いただけます!



## 基調講演

# 川の向こうにわたって 「世界の中のワタシ」 を育てる



今年の全国大会シンポジウムは、わたし広島大三が登壇させていただきました。本来なら、知見をもった先生を外部からお招きして、いつもとは違う視点から学びを得る機会としております。しかし今回は、「今年（2023年末）のうち」にどうしても、わたしからみなさんへ、ある疑問を投げ、問題提起をさせていただきかかったのです。そして、それをみなさんと共有し、話し合いたかったのです。

### なぜ「今年のうち」でなければならなかったの？

「80年周期説」というのをご存じでしょうか？天変地異は80年ごとに起こっている、歴史の変わり目は80年ごとに訪れているなど、80年というタームで、ある種の法則性を見出し、時代の転換点はどこか、これから来る80年の時代性はどんなものかを予測する、というものです。

わたしは、世の中の「時代性」を確認するときに、この80年周期説を活用しています。“当たる当たらない”という話ではなく、“信頼のおける参考情報として活用する”という話です。実際に解釈するときには、「80」という数字は「70」であったり、12年周期の6まわり目の「72」であったりします。

今世を代表する心理学者C・Gユングは、集団的無意識を説き、人類に共通の物語を提唱しました。わたしが80年周期説を活用するようになったのは、このユングの考え方と、80年周期説に、ある種の共通点というか、人類的な符号点のようなものを見出しているからかもしれません。

この80年周期説で近代日本を捉えると、1787年から行われた寛政の改革によって江戸幕府は財政危機を脱して新たなステージにはいりました。この80年後の1867年、大政奉還で江戸幕府は滅び、明治維新をむかえました。その78年後の1945年は、日本が敗戦し大日本帝国が滅び、その後、日本は経済成長の道を歩みます。

この周期で捉えると、つぎの変わり目は2025年になります。これまでの時代が終わり、つぎの周期をむかえるタイミングです。そして、いまは2023年末です。だから、「今年のうち」だったのです。

これまでの時代の歩みを振り返り、「次世代」に備える。2024年は、その準備の1年になります。この1年をかけて、わたしたちの意識を、つぎの時代に対応させておきたい、そう考えたのです。スキルアップ講座の「次世代こども教育コンサルタント」において、勉強会を定期的におこなうのも、その一環のつもりです。



## 「教育の二極化」ってなに？

さて、前置きはこのぐらいにして、本題に入りましょう。あらゆる社会が二極化される中で、「教育の二極化」という言葉もよく耳にします。ところで、みなさんは「教育の二極化」と聞いて、どんな状況を想像しますか？

たくさんの習いごとができる。塾に通える。私立学校に進学できる。  
これらがかなう家庭の子どもと、そうでない子どもの間で、教育の二極化が生じている。

これは、経済格差にひもづいて起こる「教育機会」の二極化でしょう。日本社会は、たしかにこの20年で「高所得層」と「低所得層」に分断され、かつての「中流層」がいなくなりました。これが経済の二極化です。その影響は、たしかに教育にも及んでいます。それが「教育の二極化」の様子です。このような捉え方をする方もおられるでしょう。

教育熱心な親の子どもは、勉強や進学を応援され、充実した学習環境を与えられる一方で、勉強も進学も軽視され、家事をゆだねられたり、ヤングケアラーになっている子どももいる。  
この二者の間で、教育の二極化が生じている。

この文脈は、親の考え方や教育方針による「教育環境」の二極化です。昔から教育環境に恵まれない子どもは一定数いましたが、いまはその数が圧倒的に増えて、二極化の一極を担うほどになっています。この場合、経済要因は間接的であり、むしろ親のリテラシーや、一人親世帯に特有の問題など、社会福祉的要因が横たわっています。

## 教育の二極化は、こうして進む

習いごとの多くは、「趣味・特技」の欄に書くことで、履歴書の見栄えを良くしてくれます。あるいは、“たしなみ”としての教養をアピールできます。スポーツの習いごと、ひとつのスポーツに打ち込んだ経験を、世間は良いほうに評価してくれます。

学習塾は、良い成績を残すために必要不可欠だと考えられています。受験をするなら、なおのことです。良い成績をとって、受験勉強をして、早い段階で有名私立学校に子どもを入れることができれば、苦勞させることなく有名大学に入れることができます。そうすれば、一流企業に入って将来は安泰です。親は子どもに、そんな将来像を描くことでしょ

この前提のもとでは、習いごとにいけるか、学習塾にいけるか、私立学校にいけるか、は、子どもの将来にとって重要なことです。同時に、膨大なお金がかかります。だからこそ、教育の二極化が生じたのです。

## これらは「次世代」においても真実なのでしょうか？

もし、前提が全く違うものになったとしたら・・・経済格差は、教育の二極化の要因でなくなるかもしれません。

たとえば、一流企業の採用基準で、「よい成績」や「有名大学」あるいは「スポーツの経験」や「たしなみの芸ごと」がカウントされなくなったら、学級委員や生徒会長、部活の部長やキャプテンといった経験が重視されなくなったら、少なくとも、習いごとをやっていなくても、学習塾に行っていなくても、有名大学を卒業していなくても、一流企業に入ることができてしまいます。

これは実は“たとえば”の話ではなく、現実に行っている話なのです。外資系企業や、日本の会社



でも、世界をまたにかけるグローバル企業やIT企業では、すでに採用基準において上記の要素のどれも重視されてはいません。ひとりでも多くの有能な若手人材を採るために、世界基準に合わせて、まったく別の採用基準を取り入れています。

それは、まさに「次世代」で活躍する人材です。それは、わたしたち大人が、これまで信じて疑わなかった人材像とは、まるで違うものです。むしろ、真逆の要素を持っている人材と言えるかもしれません。



## 大手企業が、いま欲しい人材像とは？

- 答えのない課題に、独自の仮説を立て、アプローチを見出すことができる
- 仕事のやり方を聞くのではなく、自分なりに調べて、解決の見当を付けたうえで、意見を聞きに来る
- なにか専門性や卓越性を持っている
- 前例や慣習にとらわれない方法にチャレンジできる
- 言われたことをやるだけでなく、その先の展開を見立て、次の仕事を自ら見出せる

企業はいま、こういう人材を欲しがっています。それがそのまま採用基準になっています。こんな言葉を聞いたことはありませんか？「美大・音大採用枠」。大手企業のなかには、美大や音大を卒業した学生を一定数採用する会社が出てきています。「前例踏襲をぶちこわす」「常識にとらわれない発想や考え方をする」「正解のない問題に取り組む」ことを常に続けてきた人材を採用するのが狙いです。

こうした新しい採用基準は、早晚すべての上場企業に浸透し、その子会社へと引き継がれ、やがては、中小企業でも当たり前になり、世間の常識となっていくでしょう。

## 教育界も、新しい人材の育成に舵を切っている

さて、教育は、こうした変化にキャッチアップできているのでしょうか？じつは、教育界も変わってきています。探求型学習とか、アクティブラーニングという言葉聞いたことがありますか？小・中学校ですでに導入されている授業形態で、みずから問いを立て・考え・行動する能力が問われ、教わった解き方を適用する能力ではなく、解き方から考えたり、応用したりする能力が評価されます。

つまり、前述した「企業が欲しがると人材像」に対応しているのです。その評価基準もこれまでとは違います。決まった答えを答えるのではなく、問いに対し、自分の意見を言い、その裏付けを述べることを求めたり、知識の量ではなく、知っていることを、どう組み立て活用するかが重視されます。

これまででは、知識や覚えた公式の量と、それをどれだけ正確に答えられるかが、テストの点数で評価され、成績の良し悪しを決めてきました。授業の発言点は、手を挙げて、答えを答えた回数と積極度で決められました。いまはまだ、こうした評価基準の名残が残っていますが、それでも探求型学習やアクティブラーニングの授業では、「次世代の評価基準」が導入されているのも確かなことです。

## 次世代における真の教育の二極化とは？

旧世代の価値観のまま、子育てする親は、点数を追い、先取り学習が有利だと信じ、習いごととはできるだけ多くやらせ、偏差値の高い学校に入ることが、将来の幸せにつながると信じています。

次世代の価値観で、子育てする親は、子どもの自主性を重視して、決定権を子どもに委ね、子どもの能力特性とパーソナリティに合った教育機会をつねに考え、子どもの好奇心の先にある専門性を獲得すること





を教育の最終目的に据えます。

つまり次世代は、親の教育方針による「二極化」の時代になります。そこには、経済的な要因は影響しません。親の考え方と実践力がそれぞれの極を形成します。冒頭で触れた、社会福祉的要因による教育環境の二極化の問題も、親が適切な考え方を知れば、お金の問題は関係ありません。子どもも、勉強とは違う価値観や能力が評価されるようになります。

80年周期の次の時代に入るといことは、2周前に江戸幕府が倒れ、1周前には大日本帝国が滅んだように、これまでの高度経済成長期の世界観が減ぶことは間違いなさそうです。そして、いまの企業の採用方針をみれば、次世代の人材も見えてきます。そうすると、かなり高い確率で、わたしのシナリオは、現実になりそうです。

答えは10年・20年後、子どもが社会に出たときにわかります。

## わたしたち大人は、よき方向へ向かっているのだろうか？

最終的に、親が子どもに願うのは、なんでしょうか？それは、金銭面と精神面の両方における「幸せな暮らし」。これに異論はないでしょう。そのために、いまの親は子どもになにを求めているのでしょうか？

歯に衣着せずに言えば、IQ・偏差値・テストの点数・成績表の評点、良い成績を取るために、塾に通うこと、出来る限り多くの習いごとをすること、よい大学に入って、一流企業に就職すること・・・というのが本音ではないでしょうか？

これまでの話を聞いて、考えや価値観に変化があったとしても、行動まで変えることは、むずかしいでしょう。それが、となりとは全く違うものであれば、なおのことです。やはり「みんなと同じ」が安心なのです。

それでも、あえて言います。勇気を出して、となりとは違う選択をしてみましょう。点数評価を捨ててみましょう。そうすると、見えてくる新しい光があります。それは、これまで気づかなかったお子さんの才能かもしれません。欠点が1周まわって長所であったことがわかるかもしれません。

## 次世代の教育が、重視しているものはなにか？

「非認知能力」という言葉を聞いたことがありますか？近年、教育界で注目されている、新しい能力基準です。将来に続く高い能力特性と、安定した情緒特性を示します。乳児期に、その土台が作られ、6歳までに活発に形成されます。

あるいは、「後伸び力」という言葉はどうでしょうか？テストの点数や、できた・できないに一喜一憂するのでなく、将来伸びるもっと大事な能力を信じてあげれば、あとになって、その子は大きく伸びます。文科省も「後伸びする力」として、これに言及していて、非認知能力と同じ文脈で語られる能力です。

これらの能力は、乳児期の親子関係で、豊かな「アタッチメント」を育むことで、自己肯定感と探求心を育て、他者への共感力・対人関係力・学習能力の基盤を育むことで、伸ばすことができます。

すでに小・中学校で導入されている探求型学習やアクティブラーニングは、まさにこれらの能力の高さが求められる学習法です。そして、次世代の教育が重視する能力特性であり、企業が欲しがるとい人材の特徴でもあります。次世代教育のカギは、間違いなくここにあります。

## 次世代の人材を、こう呼ぶことにしました

次世代の教育は、旧世代の点数教育とは、真逆の価値観です。両者の間には、川が流れています。わたしたちは、まだ旧世代の岸にいます。子どもと一緒に川を渡って、向こう側の“次世代の岸”に行かなければなりません。

次世代教育を受け、川の向こうの価値観で育てられた子どもは、幼少期から学童期に、アタッチメント豊かに育ち、非認知能力の高い性格傾向をもち、後伸び力を信じて育てられます。加えて、コミュニケーションの道具として「つかえる英語」を、科目として点数評価される英語ではなく、リベラルアーツとして学習する機会を与えられるでしょう。

さらに、海外体験を含め、さまざまな「体験」に対して、教育予算が十分に配分され、多様な機会を与えられれば、世界のどこでも活躍できる人材に育つことでしょう。次世代の価値観で育ったこのような人材を、こう呼ぶことにしました。

### 世界の中のワタシ



## 「世界の中のワタシ」を育てるために

さて、川を渡って、わが子を“世界の中のワタシ”に育てるためには、どうしたらよいのでしょうか？わたしは、親がつぎの3つの覚悟をして、それを行動に移しければ、それだけで十分だと考えています。まずは覚悟です。

1. “となりと同じ”という安心感を捨てられるか
2. 「いま」ではなく、「10年後」の子どもの“伸びしろ”を信じてあげられるか
3. 中学校までは、子どもの成績が“そこそこ”であることを受け入れられるか

サラッと書いてあるので、読んだだけだと「それくらいの覚悟なら、もうできてますよ」と思われるかもしれませんが、しかし、これを行動指針として、子育てする、教育するとなると、簡単なことではありません。それこそ相応の“覚悟”が必要です。

覚悟ができれば、あとは行動です。家計から、教育予算を設定して、子どもが社会人になる年齢までの計画を立ててください。塾・習いごと・私立受験だけに捉われずに、教育予算を配分してください。

そして、海外体験を含め、あらゆる「体験」に対して、教育予算を惜しげもなく使ってください。リベラルアーツとして“つかえる英語”の教育をあたえてください。具体的に言うと、リスニングとスピーキングです。旧世代の英語教育が重視してきた文法やリーディングは、ここでは重要ではありません。

お金をかけることよりも、戦略と方針をもつことが重要です。

## 日本の未来は意外と明るい

「世界の中のワタシ」を育てるのは、より本質に近い子育てになるだけのことです。旧世代の子育ての方が、むしろ高度経済成長期の特殊なものだったと言えます。優等生の時代は、もはや終わりました。問題児や変わり者こそ活躍できる世の中がこれから来ます。企業や経済の最前線では、変化はすでに始まっています。

子どもたちが、それぞれに、それぞれのカタチで“世界の中のワタシ”に育てば・・・その子は、専門性や有能性のもと、高付加価値の仕事に就きます。次世代の日本人は、世界をまたにかけて活躍するようになり、ドイツや北欧諸国のように、人口が少なくても、高い労働生産性を維持する国となり、日本の国力は、ふたたび世界レベルになるでしょう。

## 子育ては、もとあったカタチに“帰る”

“ふつう”が幸せだったのは、過去の話

“その子らしい”が幸せになる時代がやってきます

“みんなと同じ”が安心だったのは、過去の話

“子どもを知る”ことが、安心をくれる時代がやってきます

その方が、自然ではないですか？

改革して“変える”のではなく、もとあったカタチに“帰る”こと

“子育て”を、自然のいとなみにもどすこと

発達のジャマをしない“教育”をすること

これから、わたしたち大人が、子どもたちにしてあげられる最善ではないでしょうか？

アタッチメントアカデミア  
学長 廣島 大三





## 基調講演

# 受講生の感想

広島代表の講演やお話しはいつも情熱が伝わってきて、聞いていても楽しいですし学びになります。川の向こうにわたって「世界の中のワタシ」を育てる。これはテーマからして私には興味があり、実際海の向こうにわたって自分を育てた私なのでどんなお話しが聞けるのか興味深々でした。

旧世代の価値観のまま。次世代の価値観で。この二極化で「旧世代の価値観は終わっている」と言い切った代表の話に「そうかもしれない」と考えさせられる面もありました。

そして、代表が居酒屋?食事処で居合わせたトヨタの方々との談話の中でまだ若いのにトヨタを担っていくような素晴らしい社員の話しをなさいました。

その社員の方が高卒…。大手企業が必要としている人材は変わってきた。

この若い出来る社員は高卒と聞いた時、なぜか涙がでそうになり心がドキドキしました。と同時に思いっきり共感でした。

私が共感した所はもしかしたら、代表が1番伝えたい事とはズレていたかもしれませんが、その話しがとても心に残っているのです。

オールマイティーに何でもこなす人は、それはそれで素晴らしいと思います。

でも、「私にはこれができる!」がある人が認められそれを伸ばせる未来があることは嬉しいと感じました。子育ても教育も、「あったカタチに帰る」も大共感です。

こども英語教室主宰・子育てサロン運営・  
講座講師 群馬県

今の日本、将来の日本の危機を感じつつ、少しずつ変わっていけば未来は意外に明るい!そう思ってますめるよう、一歩ずつ…。職場、学校、自治体…いろいろな人に聞いてほしいと思いました。

保育士 50代 石川県

普段保育士をしていてアタッチメントに比重が傾き過ぎてしまうところを、子どもを取り巻く社会で見たと時の子育ての方向性を学ぶことができ、次世代の子育てに必要なとされる乳幼児期の根本的なアタッチメントの大事なところに立ち返って考えることができました。

保育士 埼玉県

子育て中の自分にとっても、ベビーマッサージに参加下さる親子様にとっても、今聞いて良かったと思える内容でした。

わかり易くて説得力のある講演でしたので、内容がスーッと入ってきました。

前日のスキルアップ研修には参加できませんでしたが、アストロロジーの単語が気になり帰宅後調べてみてびっくり!

星読み×子育てとても良いと思いました!すごく面白い教室ができそうですね!!

ママたちに、楽しく子供の事をもっと知り楽に幸せな育児をして欲しいなって思います。

素晴らしい講演を有難うございました!

ベビーマッサージ教室運営 埼玉県

自分の子育て(3児息子)において迷っていたことなど、不安に思っていたことがあったが、講演を聞いたことで具体的に道すじが見えて安心感と、ワクワク感が生まれてよかった。何を大事にすべきか、まず自分が何をすべきか、確実に1歩ずつ踏み出していこうと思えてよかった。

自営業 40代 静岡県

スキルアップ講座の復習にもなり、改めて納得しました。「何にお金を使うか」は本当に大事だと思います。一律に使う講演会でなく、自分による自分のための『話』は本当に大事だと痛感しました。

保育士 60代 静岡県

このほかのご感想はこちらから  
ご覧いただけます!



# 優秀実践者表彰式・実践発表

ダイバーシティ部門

村木 雄一さん

## 定年後の夫婦の生きがいは、親子のよりどころを作ること

取得資格



村木さんは、もともと横浜市の行政職員をされていました。そして、60歳の定年を機に、保育士資格を取得して、保育園に勤め始めたという経歴の持ち主です。奥さんも、保育園の園長先生をしています。娘さんと息子さんは、それぞれ結婚して、4人のお孫さんにめぐまれました。そんな村木さんは、「家族は、自分にとって羽を休める補給基地だ」と言います。

### 仕事は、保育士と障がい児相談支援員の二足のわらじ

村木さんの仕事は、「土と愛子供の家保育所第2」で、パートタイム保育士と、障がい児の相談支援員の二足のわらじを履いておられます。この園は、50年前から「ともに育つ」ことを実践しており、インクルーシブ保育のはしりとなる保育園です。ここでは、保育士を子どもたちが好きなように呼ぶことになっていて、「むらきさん」と呼ばれたり「むらきジジイ」と（親しみを込めて）呼ばれたりしているそうです。村木さんは、保育



補助として、あらゆる年齢帯のクラスと関わります。そのため、ほとんどの園児にとって親しみのある「言うことをきいてくれるおじいちゃん」として、おんぶやだっこ、おにごっこなど、園児たちと日々真剣に遊んでいるそうです。村木さんが意識しているのは、園児にとっての逃げ場となり、いつでもやさしく受け入れる存在であることだそうです。

### ベビーマッサージから始まったケアプラザでの活動と自分磨き

村木さんは、2019年に大阪でアタッチメント・ベビーマッサージ講座を受講されました。インストラクター資格を取得後、地元の横浜市泉区と戸塚区、2つのケアプラザでベビーマッサージ教室を始めました。ご自身が住む戸塚区では、民生児童委員もされています。民生委員は、行政とのパイプ役でもあるので、教室をはじめること自体は、やりやすかったそうです。

教室は、基本的に奥さんと一緒におこない、村木さんのベビーマッサージ教室のあとは、30分くらい「交流タイム」を設け、奥さんが、子育ての悩みや相談にのってくれるそうです。お母さんから、保育園の入り方や、制度についての相談があったときは、市職員として保育園の受け入れをしていた村木さんが、答える場面もあるそうです。

最近は、「子育てや家族関係の改善とスキップにつながる『タッピングタッチ』」も始められたそうです。村木さんの自分を磨き、地域の役に立つための好奇心は、それだけにとどまりませ





ん。「南京たますだれ」「腹話術」「リレーフォーライフ（がん征圧のための寄付やイベント）」・・・さまざまに活動の幅を広げていらっしゃいます。

## 「100 エーカーの森」心地よい 居場所を地域にひらく

そんな村木さんは、近い将来こんなことを考えているそうです。

自宅のなかにスペースをつくって、そこでベビーマツサージやタッピング、笑いヨガの各種教室をしたり、玉すだれを披露したり、お蕎麦を打ったり、味噌を作ったり・・・

これまで村木さんが好奇心から身につけたものを提供して、地域の子育てをサポートする基地をつくりたいと考えて、来年、定年を迎える奥さんとともに、準備をすすめているそうです。

子どもが熱があって保育園に行けない時に、ちょっとみてあげたり、お母さんの代わりに、お迎えに行ったりあげたり、じいじやばあばが、孫にするようなことを、ひととおりしてあげられる存在になろうということです。

## 子育て支援の現場から、 伝えたいこと

さらに今後は、医療的ケアが必要な子どもにも対応していきたい。そのために、退職した看護師さんの協力を得られる仕組みも模索しているそうです。障がい児のお子さんの親支援や、通学

支援なども課題だと言います。また、障害児を受け入れている保育園の保育士さんが相談支援専門員になれば、保育園の時から小学校入学後も継続してフォローできる体制ができる。そうしたことを、この場を借りてぜひ伝えたいという熱い思いをお持ちでした。

## 広島からひとこと

村木さんは、この年代の男性としては、とても稀有で、貴重な存在です。横浜市職員を勤めあげたあとに、保育士資格を取って、保育園を舞台に地域子育て支援の現場にどっぷり入りました。これは、簡単なことではありません。奥さんが保育園の園長先生をされていることも、良いほうへ働いたのだと思います。娘さんの家族が、孫といっしょに同居することになったことも、大きな後押しだったと思います。

わたしが「いいなあ!」と思ったのは、村木さんが、まるで子どものように、いろんなことに好奇心をもってチャレンジしている姿です。保育士として、本気で子どもと遊ぶ。玉すだれを習って披露する。そのほかにも、腹話術に蕎麦打ち、味噌作り・・・興味をもったら、やってみる。それを、地域の親子と共有して楽しむ。なにより本人が楽しんでやっておられます。だからこそ、村木さんのもとに人が集うのでしょう。

村木さんご夫妻の「100 エーカーの森」活動は、自宅の一室を地域に解放し、地域の人みんなの「じいじとばあば」の役を演ずるものだと言



います。最初は、「孫のため」が原動力で、現役子育て世帯である「子ども世帯（孫とその親）」が地域との結びつきを広めました。それが地域の子育て支援と結びつき、地域の「じいじとばあば構想」に着地しました。これは、これからの日本のシニアの「人生後半のライフワーク」のモデルケースになると思います。

村木さん、とても素敵な発表を、ありがとうございました。「100 エーカーの森」が始動したら、ぜひ取材させてください。



保育・子育て支援部門

田口 いづみさん

仕事だからこそ大事にしてきた  
「アタッチメントとベビーマッサージ」



取得資格



田口さんは、これまで保育士、幼稚園介護員、小学校図書ボランティアなど、さまざまな形で地域の子育て支援にたずさわってこられた末に、新宿区の制度である「保育ママ」の仕事に出会い、以来20年以上にわたって従事してきました。保育ママは、家庭的保育とも言われ、3歳未満の子ども3～5人を、保育者の自宅であずかり、保育を提供するという、ベビーシッターと保育園の中間のような存在です。3歳までの子どもの育

ちを見守り続けるこの仕事は、「子育てのいいところ取りをさせてもらっているようなもの」と田口さんは言います。

保育の基本は、アタッチメント

田口さんが、保育ママを始めたころ、仲間うちでベビーマッサージの話になりました。そして、ベビーマッサージを、みずからの保育に取り入れたら良いのではないかとおもい、インターネットで調べました。ベビーマッサージ教室ではなく、ベビーマッサージを行うための研修を探す中、日本アタッチメント育児協会と出会ったのが2009年のことです。決め手は、田口さん自身が保育の基本と考えていた「アタッチメント」を主体としていたことでした。早速「アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクター養成講座」を受講し、資格を取得しました。





同期の受講生のなかには、ベビーマッサージ教室を地域で展開して、優秀実践発表をして、いまも精力的に活動されている方や、養成講座の講師になった人、大学で教えている人もいます。そんな中で、田口さんは「自分は、そうしたメインストリームの方々とは少し違うベビーマッサージインストラクターだ」と思っていたそうです。「その自分が、こうしてみなさんの前で優秀実践者として発表することになるとは思ってもみなかった」と言います。

## 保育ママの ベビーマッサージ教室のカタチ

田口さんがやってきたのは、現場で保育ママとして、ベビーマッサージを活用することでした。それは、多くのインストラクターがしている「お母さんにベビーマッサージを教える」という活動ではなく、むしろ「自分がママとしてベビーマッサージをする」というものでした。これまでの13年間、田口さんは、インストラクターとしてよりも、実践者としてベビーマッサージを活かしてきました。

スキンシップのひとつとして、寝かしつけの時に、遊びの中で、ベビーマッサージ教室のように決まった時間や機会をつくるのではなく、日々の生活の中で、お母さんが子どもにするように、ベビーマッサージを取り入れるようにしてきたそうです。そのなかで、田口さんが感じた子どもたちの成長の様子を、親御さんに伝えてきました。それを聞いて、「ベビーマッサージを自分でもやって



みたい」という方もいれば、「お任せしたい」方もいて、親御さんの反応はそれぞれだったと言います。それでも、田口さんが保育ママとして「家族と変わらない愛情を抱いている」ことは、一貫して伝わっていたのだと言います。

## 毎年スキルアップし続けたから、 それが保育に生きて、 保護者にも伝わった

田口さんは、日本アタッチメント育児協会が毎年リリースする新しい講座を、必要や興味に応じて受講し学び続け、全国大会にも極力参加するようにしてきたそうです。その一番の目的は、「いろいろな刺激が受けられること」だったそうです。そうして、田口さんが身につけた「資格」は10に及びます。



その一つ一つが、保育ママとしての仕事につながっていることを実感するそうです。「どの講座も根本的な部分がアタッチメントで一貫していて、さらに発展・応用ができるので、自分が思い出し振り返るためにも受講しています。」と田口さんは言います。とくに、育児セラピストの学びは、保育ママという仕事で活かせる場面が多いそうです。それと同時に、改めて「基本はベビーマッサージ」だと感じるそうです。

「アタッチメントと安全基地という言葉が何より根底にしみついていて、子どもたちの日々の中で工夫して少しでも多くの場面で生かしていきたい。そして保護者の方との会話の中で、自然にその話題が出るように、自分の中で消化して体験が



言葉になるように使いこなしていきたい。」田口さんは、そう言います。

## この地域みんなの“ばあば”になりたい

「保育ママを仕事として、このさき何歳までつづけられるかはわかりません。いずれにしても、この地域で、ばあばが近くにいない親御さんとお子さんにとっての“ばあば”になりたい。」田口さんは、そんな展望を最後に語ってくれました。そこには、田口さんのこんな思いが秘められています。

「何かあったときにこそ、そこに行けば安心という居場所になる。そのために欠かせないものとしてアタッチメントありきが当たり前の日々を、子どもたちには過ごさせてあげたい。そうしたつながりを感じ取ってもらうことで、まわりに広がるよう心がけたい。」

## 広島からひとこと

ベビーシッターとも違う。保育士とも違う。地域の子どもと独自の関わり方をする保育ママ。田口さんは、それを20年以上つづけてきました。20年前は、今のような肯定的な受け入れられ方ばかりではなかったと想像します。みずからが学び、スキルアップを続けた田口さんのような方が、保育ママの良さを伝え、子どもたちの育ちでそれを実証し、いまの「保育ママ」というポジションを築いてこられたのだと思います。

田口さんは、ベビーマッサージとアタッチメント

を切り口に、子どもたちと日々接して、その様子を親御さんに伝えてきました。あるお母さんは、田口さんの「ベビーマッサージ」を介した手厚い保育に感謝をします。あるお母さんは、「ベビーマッサージ」に興味をしめして田口さんから教わります。その積み重ねによって、ベビーマッサージの良さが、アタッチメントの何たるかが、親御さんに伝わってきたのだと思います。「基本はベビーマッサージ」という田口さんの言葉には、そんなこれまでの歩みがにじみ出ています。

そして、田口さんも、村木さんと同じ景色を見ていました。それは、地域の“ばあば”になることです。保育ママは、もともと地域の“ばあば”に近い役割を担っていました。これからは、仕事や制度とは関係なく、じつの“ばあば”に頼るかのごとく、地域の親子とつながっていく、そんな景色が、わたしにも伝わりました。

それは、むしろ“生きがい”であり、人生をより豊かに彩ってくれるものです。

“ばあば”は、頼りにされて、感謝されて、いっしょに楽しんで、いっしょに喜ぶ。必要なときには、頼ってきてね。いつでも歓迎しますよ。ただし、わたしは“ばあば”、子どもをかわいがるだけ。子どもの育ちは、親が見てあげてくださいね。そのためのアドバイスや悩み相談は、おまかせあれ。

こんな人が、すべての地域にいたら、子育ては、もっと楽しくなります。もっと楽になります。田口さんは、そのモデルケースだと思います。すてきな発表ありがとうございました。







## 優秀実践者表彰式・ 実践発表への感想

お二人に共通する、子ども達にとって安心できる存在、場所になっていることと「ばーばの家」「100 エーカーの森」という中身も思いも濃い夢に向かわれているという、ステキな発表を聞くことができ、シンポジウムに参加してよかったです。

子育て支援事業 40代 東京都

じいじとばあば代表の方のエネルギーが実際に感じられて良かったです！

私も元行政だったこと、強みにできるんだと自信になりました！

福岡県

私も今、起業を考えているのですが、実際に実践している方の形を見ることができて、参考になりました。田口さんのばあばの部屋はとても素敵だなと感動しました。

村木さんの100 エーカーの森も大好きなプーさんをモチーフにしていて、聞くだけで行ってみたいと、ワクワクします！それを奥様とやっていくということで、私の周りにはいない素晴らしい男性です。

お二人の今後のご活躍を応援しております！

そして、もっとお話をお聞きたいです！

沖縄県

受講生の中には、引退後の活動にしたいからと、講座にいらした方がたくさんおられ、ようやくその人たちにスポットライトが当たる時代になってきたと嬉しく思いました。おふたりとも本当に子育て支援の観点から自分にできる事を長年模索して積み重ねていらっしゃるのだと感じました。

リトミック講師 愛知県

おふたりとも退職後、孫のいる年代で、これから子育てをしていく若い世代の親に対して地域のじいじ、ばあばとしてサポートしているとても頼もしい存在だと思いました。

私たち還暦を過ぎた世代にも、子育て中の世代にもパワーをくれる存在です。

助産師 60代 北海道

近くにお2人の様な活動をされているお家があればその地域の親子は絶対幸せだなと感じると同時に私の地域もそうなるように自分ができる事、1つずつでも始めたいと思いました！

ベビーマッサージ教室運営 埼玉県

東京では、家庭保育の制度が認められていることに驚きでしたが、うらやましいとも思いました。ベビーマッサージを型にはまらず、保育中の中で取り入れたり、アタッチメント保育を実践されていることに、素晴らしいと感動しました。お二人とも、子ども・地域のためにこれから活動したいとの気持ちに、年齢は関係ないとパワーをもらいました。

保育士 50代 熊本県

田口さん、村木さん。お二方の活動報告は、子育て中のお母さまやお父さまを応援したいと日々試行錯誤している私達には理想とするようなお話しでした。お二人が目指す、ばあばやじいじの部屋は間違いなく必要とされる場所だと思いますし、それがあって、たくさんのお母さんやお父さんが安心して子育てやお仕事ができるようになるのだろうな。と思い、尊敬の気持ちで聞いていました。

そういった事をやりたい。できたらいいな。と考える人はいるかもしれませんが、それを実行に移せるお二人は本当に素晴らしいです。

こども英語教室主宰・子育てサロン運営・講座講師  
群馬県

このほかのご感想はこちらから  
ご覧いただけます！



## ランチミーティング



3pm・さんじさんの美味しいランチを食べながら、グループごとに会話を楽しみました！

## お悩みスーパーバイズ 2023

例年、ご好評いただいているスーパーバイズを、今年もリアル×オンラインで行いました。

「いま抱えている問題・悩み」をグループごとに話し合ってもらい、それに対して当協会理事長の廣島のスーパーバイズのもと、参加者全員から意見をもらう、というものです。

### オンライン A グループ

## どうやってママたちに伝えたらいいの？

4人のお子さんを育てるお母さんからの悩みです。ママ友は、いろんな悩みをもっています。あるママは、自分の意見をもたず、いつもリーダーの意見に流されてしまいます。あるママは、目先のことに捉われて、常に悩みを抱えて辛い状態になっています。そういうママは、とても多いと感じます。ママ友同士で話していても、余計に悩みがこじれたり、一向に解決に向かわずに迷走したりする人も多いです。

今回講座を受けて、自分が学んだことを伝えられれば、ママ友たちの悩みは、解決出来たり、悩みではなくなったり、たいしたことではないと思えたりすると思いました。でも、どうやって伝えたら良いのかわかりません。また、伝わるような実感が持てません。どうしたらよいのでしょうか？

池口さんの A グループのなかでは、こんな話が持たれたそうです。

「当事者のママたちの場に、わたしたち育児セラピストが、第三者的に関わることで状況は変わるのではないかと。わたしたちが、いかにママたちにアクセスできるかが課題になりそうだ。」

「少しずつでも、ママたちに知ってほしい知識や考え方を、『わたし、こんなこと学んで、こうしてるよ』というスタンスで、少しずつでも伝えていくことが大事なのではないか。人は、同じ内容を、2回目に別の人から聞くと納得しやすい、ということ聞いたことがあります。自分がその2人目にはなれなくても、最初にそれを伝えた1人目の役割は大きいと思う。」

ひとつ言えることは、子育てにおいて、目先のことを見てしまうと、悩みは多くなり、深まってしまいます。その時間軸を少し先に移すと、目先の悩みがたいしたことではないことがわかります。その方が、子育ては楽だし、楽しいし、自然にできます。

「わたしは、こうやってるよ」とさり気なく伝える。もし、相手が興味をもってきたら、根拠や学術背景などを伝える。そうすると、より大きな説得力を生み、相手は腹落ちするでしょう。このとき「わかってもらおうとしない」スタンスが大事です。相手が「いいな」と思えば取り入れてくれるし、そうでなければ何も起こらないだけのことです。われわれ“伝える側”は、このスタンスをもつことが大事です。伝えたいことが、いつも伝わるとは限りません。むしろ、伝わらないのが普通です。

もう一つの伝え方は、多くのみなさんがやっていることです。ベビーマッサージを通して、アタッチメントを伝える。お母さんは、ベビーマッサージに興味があって、やってみたいと思っています。そのように、相手が興味を持っている（持ちそうな）ことをフックにして、本当に伝えたい内容を織り交ぜることです。

今年のスキルアップ講座のなかのアstroロジーも、活用できそうです。「子どもがもって生まれた性格を、占星学で知ることができるんだよ!しかも、かなり正確に当たるんだよ!」と聞いて、興味を持たないお母さんはいません。これも立派なフックになります。

あとは、この相談者の松本さんも4人のお子さんのお母さんだということなので、ご自身が学んで覚悟を決めた子育て方針を、つらぬいて実証することでしょう。時間の経過とともに「あそこのお子さん、なんかイイ感じに育ってるんじゃない!」という空気が生まれたら、こっちのものです。向こうから、いろいろ聞いてくるようになります。そうなったときに、伝えたいことは、伝わるようになります。



## 対面 A グループ

### 起業しました! 事業を軌道に乗せるには どうしたらよいでしょうか?

3歳の息子さんの子育てをする磯さん。児童発達支援施設で働いていた経験を活かして起業を決意しました。子育てをして、パートを続けるかたわらで、起業の準備を進めていましたが、なかなか進まない状況が続いていました。そこで、パートを辞めて、起業の方に専念することに決めて、いまここにいます。「孤独と不安と焦りの毎日を過ごしながら、何をどうして良いかもわからない状態ですが、今日いろんな方からエネルギーをもらったので、がんばろうと思います。よろしくお願いします。」

磯さんの起業宣言ですね。大変すばらしいです。起業というのは、じつは、わたしの得意分野ですの



で、ついアドバイスに熱が入ってしまいましたが、個別の内容なので。ここでは概略のみをご紹介します。

まずは、「わたしは、どんな価値を提供できるのか？(したいのか?)」という問いからはじまります。これを、とことんまで考え尽くすことが重要です。これが曖昧だと、いつまでたっても何も起こりません。

つぎに、「誰に提供するのか？(誰が買ってくれるのか?)」です。これは、むずかしく考える必要はありません。「こんなこと始めたの!」と人に宣伝します。広告やチラシを打ってみます。「ほしい」と言ってくれる「最初の人」に出会えるまで、手を変え品を変え続けます。その人に出会えたら、その人に最高に満足してもらえる価値を、全身全霊をかけて提供します。

すると、その最初の人から次の人をつれてきてくれます。そして、その人がまた次の人・・・と広がってゆきます。クチコミというやつです。1年もすれば、広告をしなくても、人の流れが絶えない状況ができてきます。

じつは、最初の広告やチラシは大して集客にはつながっていません。でも、大事です。なぜなら、広告やチラシを作る時に、自分のサービスや商品の価値を言語化するからです。この言葉たちによって、自分の本当のお客さんが誰なのかが明確になり、お客さんがお客さんを呼ぶ流れをつくります。

ベビーマッサージ教室は、この流れで軌道に乗るケースが非常に多いです。子育て支援においては、王道のやり方です。こんな風に、シンプルに考えた方が、うまく軌道にのりやすいというのは、わたしの経験則でもあります。

今の時代なら、お母さんたちも、「子育ての知識は必要だ」「子育てについて信頼できる人が必要だ」ということに気づいています。これからは、子育て支援で起業することは、とても大事な時代になります。わたしも応援しています。



## 対面 B グループ

### 家事・育児、いまだき夫婦の奇妙な役割分担

いまの子育ては、昔とはずいぶん変わっています。お母さんとお父さんが、一人の子どもに対して、別々に子育てをしていて、まるで「ワンオペ育児×2」のようになっている家庭を見受けます。そういう中で、子育て支援の現場では、子どもではなく、もはやお母さん支援になっている傾向もあり、そうした状況にモヤモヤとすることもあります。子どもではなく、親が主役になってしまっているようにも感じます。グループメンバー共通の憂えとして、こうした話に共感した時間でした。

わたし自身は、名古屋だからなのか「ワンオペ×2」という子育てを、身近に実感したことはありません。都内に特有のことなのかもしれません。普通に考えると、こういう子育てををしているのは、楽しくないと想像できます。しかし、「ワンオペ×2」のお父さん、お母さんは、それぞれに楽しんでおられるそうです。そうなる、もう何も言えません。楽しんでいるのですから。幸せに水を差しても野暮なだけです。

しかし、人類学的な特徴として、ヒトは共同で子育てをするように出来ていることは、サラ・ハーディーが言っているとおりです。それがヒトとして、自然の理(ことわり)です。それに反した営みは、どこかで歪みや葛藤が生まれます。お父さんもお母さんもいるのに、家族ではないという状況は、子どもを混乱さ

せるからです。これでは、子どもの発達に不都合を生んでしまいます。

「なんで、うちは3人でお出かけしないの？」などという、なにげない子どもからの一言がきっかけになるかもしれません。あるいは、子どもに自我が出てきたころに、どちらの言うこともきかなくなる、という問題行動の形で現れるかもしれません。

そうして、これまで楽しんでいた状況が一変する時が早晚おとずれるでしょう。

「最近、うちの子が、わたしの言うことも、夫の言うことも聞かないんです。どうなっちゃったのでしょうか？」

こんな問いを投げてきたら、その時が、アドバイスのチャンスです。けっきょく、相手が聞く準備ができていないと、何も伝わりません。そのためには、準備ができるまで「待つ」しかありません。たいていの場合、準備ができるのは、問題や事件がきっかけとなります。われわれ子育て支援の側の人間にとって、この「待つ」という姿勢は、とても大事です。いまずぐ伝えてスッキリしたい気持ちを抑えて、事件を待つ姿勢が、ときに必要です。

## オンラインCグループ

### どうしたら、本当に必要な人、困っている人に 支援を届けられるの？

子育て支援に従事していて、本当に支援の手が必要な人、困っている人にアクセスできていないことを、もどかしく感じます。どうしたら、必要な人のところに支援の手を届けることができるのでしょうか？

グループで話し合っ、SNSを活用したらよいのでは？情報量が多いと伝わらないのではないかとどこへアクセスすればいいのだろうか？など、いろいろ意見も出ましたが、まとまらなかったそうです。

さてここで、わたしからの質問です。

「支援の手を届けたいお母さんというのは、具体的にどんなお母さんですか？」

答えは、「育児がづらいと感じてしまっているお母さん」だそうです。

さらに質問です。「そのお母さんは、なぜ育児がづらいと感じているのですか？」

答えは「お母さんによっていろいろです。」

わたしのアドバイスはこうです。グループにおいて、前提の置き方があいまいなまま、話し合いがなされてしまっています。そのため、まとまりがつかずに終わってしまったのでしょう。こういう問いに対しては、「育児がづらい」の理由をいくつか定義して、話しを具体化する必要があります。同じ「育児がづらい」も、たとえば、こんな想定ができます。

「夫が何もしてくれなくて、精神的にも物理的にもづらい」

「人に助けてもらおうのが苦手な性格で、孤立してしまっづらい」

「フルタイムで働いていて、物理的な時間がなく、体力的にもづらい」



同じ「育児が辛い」なのですが、それぞれ、悩みの根本が違います。つまり、三者は、まったく違う悩みなのです。それを「育児が辛い」でひとくくりにするから、誰も反応しないわけです。だからその人にアクセスできないし、出会えないのです。

たとえば・・・

「夫がなにもしてくれなくて、育児が辛いあなた!」と呼びかけます。そうすると、「あっ、わたしのことだ」と言って、手を挙げてくれるでしょう。その時の媒体は、SNSでも、ホームページでも、市の広報でも、掲示板でもなんでもOKです。同様に、「人に助けを求めるのが苦手で、育児が辛いあなた」と「仕事が忙しすぎて、育児が辛いあなた」も打ち出します。

すると、最初のひとりが手を挙げてくれます。そうなったら、さきほどの起業の話とおなじです。その人が、本当は何に困っていて、何を必要としていて、なんで子育て支援に来られなかったかを教えてください。そうすれば、つぎの呼びかけは、もっと的を射た内容で、行動を起こしてくれやすいものになります。そうやってブラッシュアップしていけば、精度は上がってゆきます。

肝心なのは、問いを深めることです。前提を具体的にすることです。そこをあいまいにして、行動しようとすると、迷宮に入ってしまいます。

この話は、まさに、今日の講演のなかで話した「答えのない問題に対して、どういうアプローチをするか?」という問題であり、答えはないので、出てきた反応にあわせて、修正をくわえて精度を上げていくということです。最初は、見当違いでもいいから、何かしら具体的な検討をつけることが大事です。

## 対面Cグループ

### 起業したてで集客に悩んでいました

今日、この場に参加して、講演を聴き、いろんな方々とおしゃべりして、アドバイスやご意見をもらって、開業したばかりで右も左もわからない状態から、前に進む糸口が見えました。ベビーマッサージ教室を始めるときの思いを言葉にして、持ち続けることが大事であることや、あきらめない気持ちで続ければ結果は出ることを聞くことができ、不安な気持ちでいたところから、今はとてもワクワクしています。

先ほどの磯さんと同様に、起業したての遠藤さんの話です。

「この会場でふくらんだワクワクの気持ちを原動力に、積極的に集客をしていく意欲と覚悟ができました。それだけでなく、フリーペーパーやジモティーなど、無料であつかってもらえる媒体があることを教えてもらいました。そのほかにも、ホームページを作ることや、クチコミをつくることにも、チャレンジしていこうと思いました。また、最初に来てくれた一組を大事にすることが、とても大事だということにも気づくことができました。起業家として、わたしにしか出来ないことを追求して、これからやっていこうと決意を新たにしました。ここにくることで、同じ気持ちをもった方々とお会いできて、こちらの悩みに真剣にアドバイスをくださる仲間に出会うことができました。それだけでも、ここにきた甲斐がありました。この場に参加できたことが、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。」





## フルタイムの仕事に、2人の子どもの子育て、ママは忙しすぎる

子どもが熱を出したときも、「仕事どうしよう」と気になってしまったり、忙しすぎて、子どものことがおざなりになってしまったりします。あまりのタスクの多さに、いっぱいいっぱい、「わたしの子育ては、これでいいのか?」と自問自答する毎日です。かといって、夫が助けになってくれるわけでもなく、先が見えません。

グループのなかでは、こんな話になりました。

「自問自答できているだけで十分、子どもにも伝わっているはず」  
「夫がなにもしない問題は、どうにもならない。子どもがもう一人いると思ってあきらめるしかない」  
「女がやるのが当たり前、という考えが定着してしまっている。それでも、『やってほしい』と言いつけることが、大切なのではないか。」

この問題は、世代性が大きく影響します。一般的には30代前半より若い世代の共働き夫婦の場合、純粋に50/50の関係が多いです。お互い仕事しているのだから、家事・育児も半々でやろうという意識の人が多くいます。

このグループの場合、夫が30代後半～60代で、旧世代の価値観の夫たちなのだろうと思います。妻としては、夫に家事がちゃんとできるようになってほしい、言われなくてもやってほしい、やってもらっていることに感謝の意を表して欲しい、ということです。しかし、夫が「変わる」ことを期待するのは難しいでしょう。また、夫には夫の側の言い分もあるでしょう。

これは、ひと昔前なら、日本全国津々浦々で、妻たちによってなされていた会話です。夫をディスって、うっぶんを晴らすことが目的なら、これでOKだと思います。しかし、何らかの現状を変えようと思うなら、それなりの行動が必要です。

それなりの行動とは、「素直でダイレクトなコミュニケーションをとる」というだけのことです。これによって、現状を圧倒的によくすることができます。つまり「夫にやってもらいたいことを、具体的に表現して、依頼する」ということです。

「ゴメン、洗い物お願い!」「食器かたづけしておいて」「洗濯物洗っておいて!」「洗濯物たたんでおいて!」このように、タスクを具体的に示して、「あなたがやってください」という意思表示を明確にするのです。「わたし、いま本当に疲れてるから、今は横になってドラマ観させて!」こんなのもOKです。夫だって、普段やっていることなのですから。

これを拒否するようなら、夫婦会議ものです。「お互い働いているのに、夫は家事をやらない」という事実、なんの道理もありません。この話し合いは、夫が圧倒的に不利なのです。だから夫は拒否できません。嫌な顔をしながらも、やるでしょう。

ただし、任せた以上は、たとえ夫が洗った食器に汚れが残っていても、文句を言わずに使いましょう。ダメ出しは厳禁です。それをやると確執が生まれてしまいます。「せっかくやっても、結局文句を言う」と言って、やらない理由にされてしまいます。

大事なものは、正直に素直なコミュニケーションをとることです。言い換えれば、凶々しくなる。イイ妻を演じない。家事の件に関しては、裏も表もなく、嫌味もなく、ダイレクトなコミュニケーションをする。そうしていると、だんだん夫の方もやるのが当たり前になってきます。夫が家事しているあいだ、妻がテレビをみる光景にも、おたがい慣れて、それが自然な姿になっていきます。





## お悩みスーパーバイズへの感想

どんな悩みや質問に対しても答えは1つではないし、第三者の前向きなアドバイスはとても励みになるな—と感じました。

子育てに悩んでるママたちひとりひとりにこんな頼もしい相談者が居る教室を作りたいです！

大切なことに気付かせていただき有難うございました！  
ベビーマッサージ 教室運営 埼玉県

意外と皆、同じような悩みがあるのだなと思いました。普段抱えているもやもやを、この場で言葉にでき、伝え合ったことが財産になりました。

産科コンシェルジュ 30代 東京都

直接、お話しできて良かったと思いました。さまざまな体験を聞くことができたり、情報交換や、今後もメールなどで繋がることのできたことがありがたかった。

岡山県

どれもうんうんと頷けるお悩みで、私のお悩みにもアドバイスをいただけてとても貴重な時間でした。皆さんの発表も、開業したての私には刺さりまくりで、メモが止まりませんでした。私も勉強会に混ぜて〜と心の中で手を挙げていました(笑) 素敵な方ばかりで、皆さんのお話をもっと聞いたり繋がれたら嬉しいな—と思いました。オンラインだったのでそこがやはりリアルとの違いですね。残念でした。また東京にも伺えるよう、子どもの成長を見守りつつ、私も親として、起業家としてコツコツと活動を続けていけるよう頑張ります。

看護師 滋賀県

自分の感じていた疑問を他のグループさんから、出てきて、とても参考になりました。思い切って、緊張しながら発表していただいた方々の一生懸命さにも感動しました。

初めての参加でしたが、来年度も是非参加します！

沖縄県

このほかのご感想はこちらから  
ご覧いただけます！



## スタッフより あとかき



### 桑山 美樹 (事務局長)

コロナ禍で開校した、アタッチメント・アカデミア東京での開催も3回目となりました。ここは、対面とオンラインの双方がコミュニケーションできる場として整備されています。会報誌をご覧いただき、熱気を感じられた皆様！ぜひ来年はリアルタイムでご参加ください。



### 塩澤 美月 (事務局)

今年も東京会場で受付やインタビューをさせていただきました。毎年、皆様と直接お会いできる全国大会は楽しいイベントです。

知識のアップデートを求めて参加される方、活動に行き詰って悩んでいる方、いろんな背景をもって参加されています。ぜひ、今年参加できなかった方は、来年、参加してみてください！お会いしましょう！



### 岸本 香織 (編集)

参加された方はもちろん、今回ご参加できなかった方にも、当日の熱量が伝わるようにとの想いを込めて今号を作成いたしました。

これをお読みくださったみなさまは、今大会のテーマをどう受け止められましたか？「その子らしさが幸せになる時代」、そう聞いて私はとてもワクワクしました。ぜひ、みなさまのご感想やご意見などお聞かせいただけましたら嬉しいです！



### 花田 光代 (事務局)

今年も多くの皆様にご参加いただき、年に一度のこの全国大会を心待ちにさせていただいているんだなと感じながら、準備を進めていました。

感想に目を通してしていると、新しい発見のあった方や、新たに気合が入られた方などがいて、お役に立てて良かったなと思いました。ありがとうございました。



### 角田 誠

(システム・Webデザイン)

全国大会のWebページの制作に携わらせていただきました。配色や余白、文字間など読み

やすさを意識して作成しましたが、いかがでしたでしょうか。

また、今大会のテーマにもリンクしますが、私自身もプログラミングの分野で専門性を活かして、これからもお読みくださる方々の問題解決につながるようなサイトやアプリを作っていきたいと思っています。



今年の全国大会は、10年後に振り返ったとき、「このときから、こんなこと言ってたんだなあ！本当にそうなるとは、思ってたけど」などと、みんなして言っているのではないかと考えています。「2024年に、わけもわからないまま、それでも一歩を踏み出しておいてよかった」そう振り返ることでしょう。

80年ぶりの時代の転換点が来ていることは間違いありません。そして、いま起きている事実、明確な未来を示唆しています。いまの子どもたちが、“世界のワタシ”に育てば、日本は、人口が少なくても、世界をリードする国でいられます。そういう人材を育てるのは、いま子育てや教育を担う大人である我々です。

まずは、目の前のわが子のことを考えれば、充分です。身近に関わっている子どもとその親を導いてあげられれば、御の字です。そういう景色が、全国各地で起これば、世の中の価値観が変わる時がおとずれます。気づいたわたしたちから、それを始めましょう。

(社)日本アタッチメント育児協会 理事長 廣島 大三





発行：一般社団法人 日本アタッチメント育児協会

本部 愛知県名古屋市熱田区金山町 1 丁目 13-14 アールワン金山 3F  
アタッチメント・アカデミア 東京都文京区春日 2-10-15 志知ビル 7F

URL： <https://www.naik.jp> E-mail： [info@naik.jp](mailto:info@naik.jp)

TEL：052-265-6526 FAX：052-265-6529

---

発行日 2024 年 1 月 11 日